

日刊 動労千葉

87. 11. 24

No. 2708

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三五～六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

新たな「血の入れ換え」攻撃

広域配転を許すな！

十一月十三日、東日本会社当局は、「地域間異動の実施について」なる提案をおこなってきた。これは、仙台・盛岡・秋田・新潟・長野から、東京・高崎・水戸・千葉へ大量の広域配転をおこなう、というものである。今回の提案では、最終的には五千人とも言われる配転を目論んでいるうち、今年度中に約千人を、千葉・東京に異動させるといのである。（実施時期は、十二月一日以降準備できしだい、期間は原則として二年間）

この広域配転は、その目的に、「全社的に民間企業にふさわしい人材を育成すること」「東京地方の活力向上をめざす」ことをおいていることから明らかとなり、新たな「血の入れ換え」攻撃である。「民間企業にふさわ

しい人材育成」「活力向上」なる言い方が、組合潰し、当局に奴隷のように忠誠を誓わない労働者への差別・パージと同義語であることは、この間の攻撃のなかで明らかである。この広域配転をおして、一旦はいきずまり、失敗した強制出向攻撃が玉つきの前面化するとは明らかである。

しかもわれわれは、組合潰しのためにのみ、人間をあたかも物のように、右から左、左から右へと紙切れ一枚で吹き飛ばすような労務政策を許すことはできない。こんなことがまかり通るとしたら、労働者の生活も権利も、すべてが破壊されてしまう。

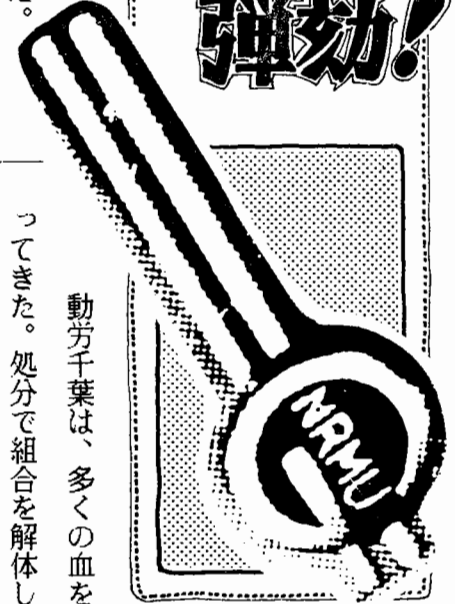
また、この攻撃は、革マル鉄道労連と当局が一体となった動労千葉、国労破壊攻撃である。革マル鉄道労連は、

「国労、鉄産労の存在は、JR東日本の経営にとって許されない」「会社を破産に導く病原菌・癌細胞」（東鉄労支部委員長会議）と称して全面的な国労、動労千葉破壊の策動を強めている。今回の広域配転攻撃が、このような革マル鉄道労連方針と一体となったものであることは明らかである。

われわれは、この間、原則的に闘いぬくことをもって、千葉管内では、運転職場への広域配転を阻止してきた。われわれは、動労千葉、国労を圧殺するためのみの広域配転など、断じて認める訳にはいかない。このような労務支配は、不当労働行為の最たるものである。われわれは、当局があくまで強行するならば全力をあげて対決する決意である。

会社当局は、十一月七日、訓告・嚴重注意をあわせ二四〇名の不当処分を通告した。理由は、組合バッチの着用、名札の未着用とされているが、きわめて特徴的なことに、被処分者の多くが「要員センター」「事業部」「売店」などへ強制配転された国労組合員に集中していることである。動労千葉には、三名の嚴重注意が通告されたが、三名とも、（国労の仲間も含めた六名全員が）成東及び佐原の無人駅配転者である。このことから明らかかなように、今回の処分は、徹底した差別処分であり、見せしめに他ならない。「屈服しない者は処分で潰せ」……これが当局の方針なのだ。

無人駅の仲間への不当処分弾劾!



そのほてには、組合掲示であれ、書類であれ、勝手に持ち去ってはゴミ箱に投げ捨てる。労働組合の存在すらガマンできないというのである。

同時に、この攻撃は、革マル鉄道労連の血道をあげた国労きり崩し攻撃と時を同じくして通告されたことを重視しなければならぬ。われわれはここに、まさに当局と革マルが連合した姿を見ることができ

「四・一分割・民営化」の強行をもってしても、動労千葉、国労解体に失敗し、一向に崩せない、そのあせりが、ますます凶暴な強権支配へとかりたてている。考えてもみよう。四・一以降「名札をつける、組合バッチをはずせ、カーテンを開ける、あごひもをかける、靴は黒に統一だ……」おもいだすのも腹だたいことばかりではないか。そのほてには、組合掲示であれ、書類であれ、勝手に持ち去ってはゴミ箱に投げ捨てる。労働組合の存在すらガマンできないというのである。

動労千葉は、多くの血を流し、今日の団結を勝ちとってきた。処分を組合を解体し、労働者を屈服させることなどでははしない。

われわれは、ますます団結を固めるであろう。不当処分を粉碎し、革マル鉄道労連、自民党労働組合と当局一体の動労千葉、国労潰しをうち砕こう。

11/28.29 労働者福祉センター 4F **高級紳士・婦人服**
全品有名ブランド 市価の**30%~50%OFF!!**